

今回の瓦版は、会員以外の世帯にも
配布させていただいています！

* 瓦版は、3月・7月・11月の年3回の発行です。

* 本瓦版(pdfファイル)は、連携メールで「富田林寺内町の探訪」からダウンロードすることもできます。

第59号 発行・編集：富田林寺内町をまもり・そだてる会／じないまち交流館 富田林市富田林町9-29（じないまち交流館） 平成26年11月25日（1）



寺内町

JINAIMACHI KAWARABAN Vol. 59

瓦版/59号

題字 / 和田 孝雄さん（堺町）



黒壁スクエアでの説明

九月二十八日（日）、三四名の会員さん達を乗せた大型バスは午前八時少し前、長浜を目指して晴天の市役所第二駐車場を出発しました。早朝は少し肌寒く感じましたが、出発する頃には長袖では暑い位です。しかしバスの中は冷房も効き、ゆったり座れて快適です。

長浜は何度か来ていたので知って居るつもりでしたが、実は『黒壁スクエア』と呼ばれる周辺だけだったという事がよくわかりました。以下は説明していただいた内容です。

長浜は秀吉が今浜と言われていた所を、琵琶湖を利用した湖上交通と陸路の拠点とする為、信長の一字をもらい長浜と改名し、長浜城を築いた事に始まるそうです。

まもり・そだてる会
会員見学会へ滋賀長浜 黒壁スクエアへ

秀吉は十人衆による自治を認め、税金も免除した為とどんでん返ししました。しかしあまりにも人々が流入し、近隣に百姓がいなくなるといので規制しようとしたが、妻寧々の助言で思いどまった為、長浜は栄え続けたという事です。そして江戸時代になり彦根藩の領地となった後も、長浜の自治と税の免除は続いたという事です。

そのような中で、十人衆中の三年寄りの一人は、彦根藩主から長浜の町政を司りその功績を称える書を与えられて居るそうです。今もその住居の本陣跡が、幼稚園として利用されています。又別の年寄りの住居（安道家）には、明治時代に北大路魯山人が何度も逗留し、天井画や篆刻なども残されているという事です。

昼食場所の『長浜浪漫ビール』は、水路のような『米川』沿いの蔵を改装したもので、北国街道に沿って建つ表から真っ直ぐ裏の川に繋がっています。蔵には琵琶湖から川を使って運ばれた荷物を、直接荷揚げ出来るようになっていました。



北国街道に面した安道家住宅

先の本陣跡や大きな店も、表は街道に面し裏は石の階段を設け、川に直結しています。

町の北東にある大通寺は、伏見城や長浜城の一部を移築し、丸山忠挙や狩野山楽の襖絵や名庭園もある浄土真宗の立派なお寺です。大きく豪華な山門は、京都の東本願寺山門の図面をもらい、少し小さくして建てられたもので、東本願寺山門が焼失した時は、逆に大通寺の図面を基に再建されたそうです。帰ってから二つの写真を見比べると、本当にそっくりです。

『曳山まつり』の曳山は、各町会に計十二台もあり、それを収める建物も各々の町会にあります。ガイドをしてくださった方の町会では、一回の曳山祭りに八百万円もかかるので積み立てをしているとの事でした。

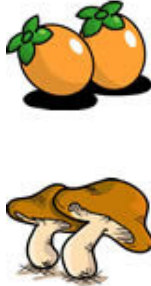


船板を用いた大商家の蔵群

ガイドさんに説明してもらい、今まで知らなかった事を色々知ることができました。

『長浜浪漫ビール』で昼食を取った後は自由散策です。JR長浜駅前の『秀吉三成出逢いの像』の前で、石田三成が秀吉の家来になるきっかけになったという『三献の茶』の逸話に感心した後、黒壁スクエアに戻りました。お土産を買っていると、あつという間に集合時間です。再び迎えに来たバスに乗り、お旅所駐車場から帰途につきました。

今回の見学会で、知らない長浜がたくさんある事を知り、それらを観る為にも又訪れなければ...等と回想しているうちに、渋滞に会う事もなく、予定より早い五時前に市役所の駐車場に帰り着きました。



（北会所町 芝本重子）

「寺内町四季物語2014夏 第11回寺内町燈路」報告

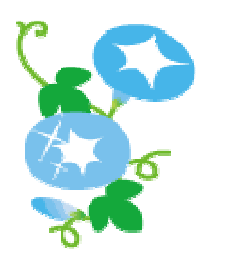
今年の寺内町燈路(主催：じないまち四季物語実行委員会、共催：当会、観光協会)は8月30日(土)に実施されました。当日は朝から夏の日差しが一杯で快晴の天気でしたが、夕刻にはお湿り程度のパラパラした雨粒が落ちてきました。行灯に点火する頃には曇り空になり寺内町とその周辺には約1000基の行灯が並べられ、一斉にローソクに灯が入られると、美しい町並みが映し出されました。浴衣姿の来場者も多数参加され、写真やビデオにその美しい景色を写しておられました。参加者何名かから単車及び自転車の駐輪場所はマップに記載されているものの、場所を増やしてもっと解りやすくしてほしいという要望がありました。当日の参加者は、約4800人(四季物語実行委員会発表)でした。皆さん、ご参加、ご協力ありがとうございました。(企画事業部会)



(写真提供：奥谷直也様)



(写真提供：奥谷直也様)



「第5回 寺内町月見の会」報告

暑さが和らぐ秋はお月見の季節です、空気が澄んで月の高さも鑑賞向きです。「第5回寺内町月見の会」が中秋の名月の日の9月8日(月)展望広場において開催されました。昨年は、屋内で「清永とおる氏」のトークとギターライブが始まりましたが、今年は、富田林寺内町をまもり・そだてる会結成20周年を祝い、会員相互の親睦行事として実施されました。展望広場のあたり一面が薄暗くなった頃、東の空から山吹色をした大きな真ん丸のお月さんが明るく見えました。アポロ計画で、アームストロング船長とオールドリン操縦士が人類で初めて月面着陸したのは1969年7月20日で、今から45年前の出来事です。



約80世帯の会員が参加され、用意されていた150個の月見団子は、全て出払い、子供達や保護者の方々でおいしく頂き、盛況の内に終えることが出来ました。皆さん、ご参加、ご協力ありがとうございました。(企画事業部会)

富田林寺内町をまもり・そだてる会20周年記念事業 / 富田林市文化振興基金事業 「富田林寺内町フェスティバル」報告

11月としては肌寒い11月15日(土)、16日(日)に、当会結成20周年を祝して、当寺内町を中心に「寺内町フェスティバル」が開催されました。15日の夜には、城之門筋から旧杉山家住宅まで「じないまち燈路」が、旧杉山家住宅では「ジャズ講談 織田作之助と石上露子」が開催され、16日には、興正寺別院にて「大茶会」が、展望広場では「天晴!秋空コンサート」が、旧万里春酒蔵では「寺内町サミット」など様々な催しが開催されました。両日も好天に恵まれ、町中は、普段より多くの住民や来訪者で賑わいました。特に「寺内町サミット」では、河島アナムさんのコンサートの後、大阪国際大学の笠井敏光教授による「歴史遺産を活かしたまちづくり」の基調講演があり、続いて参加各市(八尾市、貝塚市、橿原市、津市、富田林市)代表によるプレゼンと討論会が行われ、4時間に及ぶサミットは幕を閉じました。サミット参加者は約1000名でした。また両日のフェスティバル参加者は推測で、計約2,000名でした。皆さん、ご参加、ご協力ありがとうございました。(20周年記念事業実行委員会)



富田林寺内町 来訪者 歓迎キャンペーン

こんにちは! 笑顔であいさつ 歓迎を

まもり・そだてる会活動報告

Table with columns: 月 (Month), 日 (Date), 会議名 (Meeting Name), 内容 (Content). Lists various meetings from July to November, including general assemblies, committee meetings, and anniversary events.

* (正式名称): 企画事業部会 ** (正式名称): 20周年記念事業実行委員会

我が町 寺内町 見ゆめ記 (1) 寺内町の良き再認識

台風の影響が少し曇り気味の10月4日(土)に我が町、寺内町の良さを再認識し、この町に住んでおられる方々や、観光でこの町にいられた多数の方々に、寺内町瓦版を通して、その良さを、見所などを広報部委員が、ボランティアとして、ガイドさんのお話をお聞きし、アガリドさんのお話をお聞きし、私が見たり感じたりしたことを、心に以下に記述します。

寺内町と門前町の違いを自分なりに以下の様に整理してみました。寺内町とは戦国時代に濠や土壘で城塞化され、計画的な町割りが行われ、自治権や諸公事免除(軍資金、年貢、労役を課さない)などの特権を得た町屋の集まりの事で、1471年蓮如上人浄土真宗8代法主が越前吉崎に御坊を建設したのが始まりとされている。門前町とは有力な寺院・神社の参道や周辺に形成された町並みで、大規模で多くの参詣者を集める神社や寺院の前に、社寺関係者や参拝客を相手にする商業者

り、横に広がって扁平型(楕円形)になってきました。明治時代にならぶ高くなるのはどうかというところから、矩形(長方形)となり、大正時代には、軒高の高まりに応じて大きな矩形となります。虫籠窓の使用は大正時代まで、昭和時代に入ると硝子窓がこれに替わります。寺内町には、江戸時代中頃から幕末・明治・大正・昭和初期にかけて建築された家が数多くあります。建てられたお家を建築時期に沿って迎ってみるとおもしろいと思います。

寺内町の様に旧家の軒先に鍾馗さんが置いてあるのを時々見受けることがあります。寺内町では洪谷家の東側、田守家の西側と西側と南側などです(他にもつとあるのかも知れません)。鍾馗さんをお供えするのは、鐘馗の伝説の人物です。両親がその物語にならって、鍾馗さんを鬼瓦に向けて置いたところ、娘さんの病気が治ったそうです。また中国では鍾馗さんは邪気を取り除く神とも言われています。

寺内町では色々な行事があります。平成26年3月の雛めぐりが行われた時にも多数の観光客が寺内町にやってきました。その時、家の前のお寺の山門を写真撮影している年輩の男性が、おられたのでお声をかけました。その方は古い町並みやお寺の瓦、特に鬼瓦を写真撮影するのが趣味とのことでした。お話している途中、私の家の軒下を振り向き、瓦を見つけたら驚きました。私は今まで鍾馗さんが何故軒下にあるのか知らなかったもので、年輩の男性に理由をお伺いしました。

私の家は、食料品店を営んでおり、子供の頃、焼魚の配達等で家の手伝いをしていた。寺内町には、八百屋、肉屋、魚屋、金物屋、すし屋、桶屋、うどん屋、すし屋、あたりを歩くと、いろいろな店が並び、賑わっている。昭和五十年代には、ダイエーも進出して来て、銀行なども駅前が出来ました。コンビニ、スーパーの進出で、寺内町に生まれ育ちました。ただ、見学に来られた人々が、地図を見ながら、声をかけておられたら、声をかけようと思えます。よろしくお願ひします。

☆交流館だより☆

◎ギャラリー展示予定

十二月一日〜十四日 奥野玲子 山の絵の油絵展

十二月十六日〜一月十四日 富田林幼稚園 茶碗・皿作展

一月十五日〜三十一日 手作りサロン タペストリー・衣類・縮細細工作展

二月一日〜二十八日 ボタニカルアート 水彩画展

二月一日〜三十一日 じないまち交流館 お雛さま展示

恒例の新春『鍋めぐり』

一月十日(土)開催

編集雑感

私は昭和二十三年に富田林に生まれました。当時は敗戦国日本をアメリカが占領して、諸制度や教育の見直しを行っていた時期でした。私の名前を付けるとき、今と違い使っていない漢字の制限があり、両親はいろいろ考えたそうです。幼い頃はみんな貧しく、服装もいいものは着ていませんでした。又、食べ物も粗食で牛肉などは高価で年に数えるほどしか食べられませんでした。しかし、子供達は元気で、家の外で缶けりや、おにごっこ、たけうま、野球などで遊んでいました。陰湿ないじめもほとんどなかったと思います。当時近所に蔵があり、蔵の中でチャンバラなどをして、懐かしい思い出です。小学校から高校まで富田林市内に通い、大学は遠方の横浜でした。運動が好きで、中学校は水泳部、高校はバスケット部、大学は弓道とへたでしたが、いろいろなことをやりました。おかげ様で大きな病気もせず、六十半ばまで元気で暮らしております。高校一年のとき、興正寺別院でバスケット部の合宿をした思い出があります。お寺の本堂で寝泊まりし、食事は出前、風呂は石川の橋の近くに行きました。当時はまだ寺内町は保存地区ではなく、道もアスファルトではない所も多々ありました。夏のおっちゃん家の前も夕涼みをしている光景も見受けられました。

広報部会

- 部長 中井隆洋
副部長 田中新之助
委員 大塚健治、柳田幸雄、和田孝三、和孝三、柳本幸三、尾谷正勝、井上正勝